

[平成 21 年度参考となる技術]

[技術名] 切り下球根を利用した福井ユリ「リリブライトレッド」の年内出荷栽培技術

[要約] 季咲き栽培後「リリブライトレッド」の球根サイズ中(球周 12~14 cm)~大(球周 14~16 cm)の切り下球根を、8~10℃で 8 週間の低温処理を行い、8 月下旬~9 月中旬にハウス内に定植することにより、無加温栽培で年内出荷が可能である。

[キーワード] ユリ、切り下球根、年内開花

[担当] 福井園試・花き研究グループ

[連絡先] 0770-32-0009、電子メール enshi@pref.fukui.lg.jp

[背景・ねらい]

福井ユリ「リリブライトレッド」は 2007 年 3 月に種苗登録されたが、季咲きの栽培が主であるため、出荷時期が 5 月中旬と限られている。そこで、小球開花性と早生性である品種特性を生かし、無加温ハウス栽培による切り下球根利用の年内出荷栽培技術を検討した。

[技術の内容・特徴]

- 1 「リリブライトレッド」の切り下球根を、8~10℃で 8 週間低温処理することにより休眠打破することができる(図 1)。
- 2 年内出荷栽培には、球周 12~14 cm 以上の切り下球根を利用する(図 2)。
- 3 低温処理後の球根を 8 月下旬~9 月中旬に無加温ハウス内に定植することにより、切り花長 80 cm 以上の秀品規格を 11 月下旬~12 月下旬に出荷することができる(図 3、4)。

[技術の活用面・留意点]

- 1 季咲き栽培の収穫は、地際から 10 cm 上とし、切り下球根の肥大を促すこととする。季咲き栽培終了直後に液肥(成分量 例 15-8-17) 1000 倍液を 10/m² 1 回施用する。また、球根養成期間中は灌水を行い、表土を乾かさないう管理する。
- 2 低温処理は、コンテナに有孔ポリビニールを敷き、水分重量(d/w)約 50%に湿らせたピートモス(強く握って指の間から水が染み出す程度)が上下左右に十分覆われるように球根を詰め、最後に上部を有孔ポリビニールで覆ってパッキングする。
- 3 植え付け間隔は、季咲き栽培と同じく 12~15 cm とする。分球した球根を用いる場合は、これより 3~5 cm 広めに植え付ける。
- 4 生育初期に高温乾燥に遭うと芽の伸びが悪くなるので、植え付け後から 9 月中は灌水量を多くし、40%程度の遮光を行う。11 月後半はハウスの保温に努める。

[具体的データ]

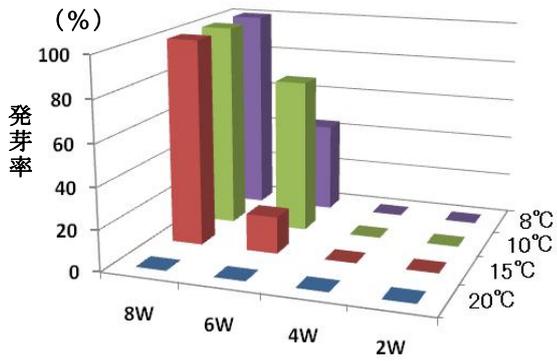


図1 低温処理の温度・期間が発芽に及ぼす影響(2007)

球根サイズ中球 9/14 定植 10/15 調査

※8°Cと10°Cの8週間処理は定植2週間後より発芽し始めたが、15°C8週間処理は発芽が遅延した。

(cm) (輪)

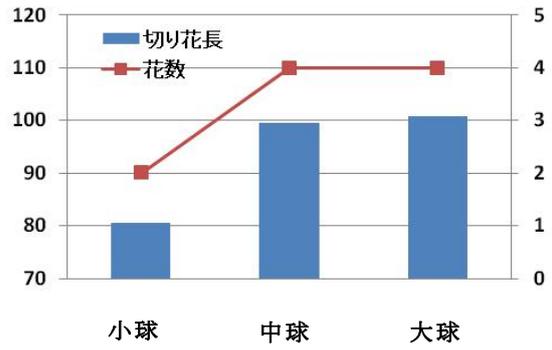


図2 球根サイズが切り花品質に及ぼす影響(2006)

9/7 定植 小球:球周 10~12 cm

中球:球周 12~14 cm 大球:球周 14~16 cm



図3 定植日が切り花長・開花日に及ぼす影響(2006)

球根サイズ中球

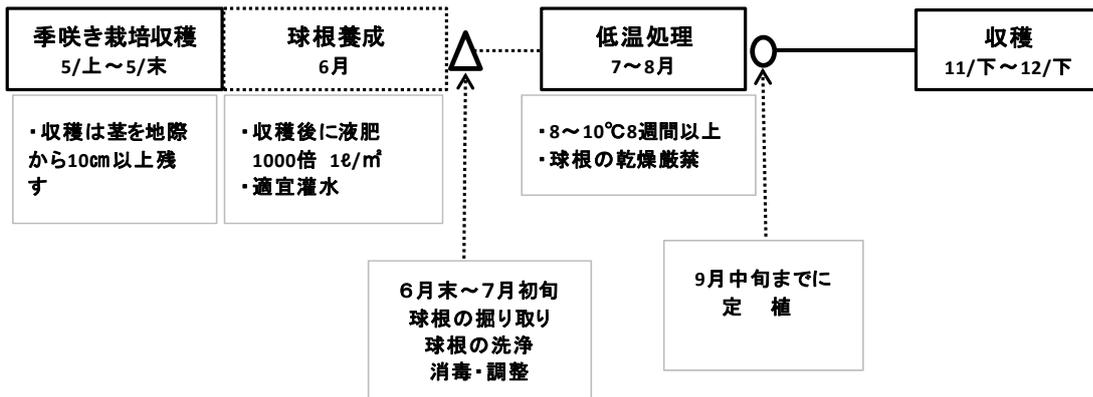


図4 季咲き栽培から年内出荷栽培の作業スケジュール

[その他]

研究課題名: 福井ユリの春・秋出荷栽培技術の開発

研究期間: 2006~2008年度

研究担当者: 東英子